

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	白石町立白石中学校
1 前年度 評価結果の概要	最終評価、学校関係者評価ともおおむね達成できている結果であった。「心の教育」については、統合1年目であったことによる生徒が落ち着かない様子がみられたことが挙げられた。「業務改善・教職員の働き方改革の推進」については、3ゼロ宣言を職員の合言葉として取り組み、大きな成果があった。時間外在校時間の削減は、職員により差があり、さらに意識を高める取組が必要である。
2 学校教育目標	志をもち、自ら学び、未来を切り拓く、輝きに満ちた生徒の育成
3 本年度の重点目標	①学力の向上 ②心の教育 ③健康・体づくり ④特別支援教育の充実 ⑤キャリア教育の充実 ⑥開かれた学校づくり

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価			
(1)共通評価項目									
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○「主体的、対話的な深い学び」を通じた分かる授業作り	○学力向上、指導法工夫改善実践に取り組む教師の割合90%以上。 ○授業のめあての達成を意識して授業に臨むことができていると回答した生徒の割合80%以上。	・1時間または単元を通して、「授業作りステップ123」を意識し、指導法工夫改善に取り組む。	B	・校内研究において、主体的に学ぶ生徒の育成を目指し、個人研究に取り組めた。 ・授業づくりについて見直し、全職員で確認した後、取り組むことができた。	A	・「主体的に学ぶ生徒を自分なりに定義し、その育成に向けて授業改善に取り組むことができた」という質問で87%が肯定的な回答であった。 ・AI等のICTを活用した授業改善に取り組む、学習の目当てを意識した学習に取り組む生徒の割合が85%であった。	A	・どの先生方も授業改善に取り組んでおられることがわかった。さらに手立てが必要であり、引き続き取り組んでもらいたい。 ・授業づくりや生徒が主体的に学べる工夫が向上している。AI等の活用をして分かりやすい授業ができているのを感じる。
	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身につける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒の割合80%以上。	・道徳に関するアンケートの実施。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修の実施。 ・学級通信を活用して道徳教育を保護者に向けて発信をする。	B	・道徳科に関するアンケートは、各学年での実施となったので、今回は全校生徒を対象とした共通のアンケートを実施したい。 ・校内研修は実施予定であったが中止となった。 ・学級通信での保護者への発信は適宜行っている。	A	・アンケートにおいては、教師・生徒・保護者の三者において、道徳科に意欲的に取り組む姿勢を占める回答が8割を超える顕著な成果が得られた。 ・学級通信における保護者への発信や、ふれあい道徳を保護者参加型にするなどの実践を通して、家庭や地域との連携を重視することができた。	B	・中学校における支持的風土のある集団づくりは本当に大変であると思う。これからも続けてほしい。 ・学年を追うごとに自分の進路選択に真剣に向き合っているように感じる。 ・自分の居場所がどこにあるというのは良いと思う。いじめに対しても早いうちに対応を取ったり連携したりと意欲的だと感じた。 ・心の教育はこれからの学校に最も求められる教育の一つであると思います。いじめにしても将来の目標にしても生徒に考えさせようとしているのは大いに評価できると思う。 ・自分の将来に夢や希望をもっている生徒が60%程度というのは少し残念な結果である。学校だけでなく、家庭や地域の中でも夢や希望をもてるような環境づくりをしたい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●「先生は自分の相談を聞いてくれる」「先生はあなたの良いところを認めてくれる」に対して肯定的に回答する生徒の割合80%以上。 ○「授業や学級において支持的風土の醸成に力を尽くしている」と回答する教員の割合が100%。	・毎週の生徒指導部会を、毎月生徒支援協議会で生徒の状況の共通理解。 ・年間2回の教育相談を実施。 ・毎週教育相談部会を開催。 ・生徒の主体性を育む学級活動の充実。	B	・毎週の生徒指導部会、教育相談部会の開催、毎月生徒支援協議会の実施により、情報の共有や課題改善をはかることができた。毎月の生活アンケート(いじめ調査)を実施して、いじめの早期発見に取り組むことができた。 ・教育相談週を2回実施したことで、生徒に向き合う時間を捻出でき、生徒理解へ活用できた。 ・学級や学年の学級活動の中で集団作りは今後も継続的に進めていきたいと考える。	B	・毎週の生徒指導部会、教育相談部会の開催、毎月生徒支援協議会の実施により、情報の共有や課題改善をはかることができた。毎月の生活アンケート(いじめ調査)を実施して、84%の生徒が先生は、いじめ防止やいじめの早期発見、早期解決に取り組んでいると回答している。 ・「学級や学年は安心できる居場所はある」と肯定的な回答をした生徒が約83%であり、「生徒の声を耳を傾け、学級集団作り」と肯定的な教師が90%であった。今後も支持的風土のある集団作りが課題であり、他機関との連携をより対応を図ってきたい。	B	・「健康に良い食事をしていく」生徒の割合は92%。「早寝・早起き・朝ご飯」等の望ましい生活習慣を心がけている生徒の割合は83%と目標を上回った。 ・生徒会で生活習慣アンケートを取り、結果を掲示して意識向上を目指した取り組みを行った。
●◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒の割合70%以上。	・学級活動のなかで将来のことについて学習する場を設ける。 ・進路についてなどが分かるような掲示物を貼り、目標に向かって意欲的に取り組むことができるような環境づくりを行う。	B	・2、3年生は、職場体験や入試に向けての取り組みを通して、将来の自分の生き方についての学習を行った。1年生は11月からキャリア教育を本格的に始める。	B	・進路に関する学習指導は計画的に実施できた。生徒、保護者もその認識ができている。 ・3年生については、自分の将来をイメージしながら進路選択につなげることができた。 ・1、2年生のOUの結果によると、「自分の将来に夢や希望をもっている」という質問に対し、肯定的な回答が60%程度にとどまった。	B	・タブレットを使って学習する際、目を休めることの大切さを伝えてほしい。 ・食に関しては、学校は給食なのでいい状態だが、問題は家庭での取り組みだと考える。(PTA活動等) ・健康に良い食事をしていく生徒が92%というのは具体的な取組が功を奏していると思う。	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしていく」生徒の割合80%以上を目指す。 ●給食残食率0%を目指す。 ●「早寝・早起き・朝ごはん」等の望ましい生活習慣を心がけていると回答した生徒の割合80%以上を目指す。	・家庭科等の授業で栄養教諭とTTの授業を行い、食への関心を高めさせる。 ・食育便りの発行や掲示物の作成を行う。 ・生徒会と連携して生活習慣の改善に向けた取り組みを行う。	B	・6月に「早寝・早起き・朝ご飯」カードに全校で取組み、意識を高めた。 ・給食委員会が食品ロスについての取組を行った結果、昨年度に比べ残食率が4%減少した。 ・保健委員会が生活習慣アンケートをとった。これから結果を全校に掲示し、よりよい生活習慣への意識を高めたい。	B	・「健康に良い食事をしていく」生徒の割合は92%。「早寝・早起き・朝ご飯」等の望ましい生活習慣を心がけている生徒の割合は83%と目標を上回った。 ・生徒会で生活習慣アンケートを取り、結果を掲示して意識向上を目指した取り組みを行った。	B	・チーム力で教員一人ひとりの業務時間を削減することができているのは素晴らしい。 ・以前から比べるとかなり改善できている。 ・部活動を勤務時間内に設定することは難しいと思う。 ・服務規律の保持はしっかりなされている。 ・先生方の業務効率化、時間外在校時間の削減はなかなか難しいと思う。 ・教員の勤務時間が多く先生方の家庭の問題にもつながると思う。 ・先生方のメンタルヘルス不全を出さないことは大切だと思う。先生方の不祥事は学校への信頼を無くしてしまいます。これからは頑張ってください。
	●「基本的な生活習慣を身につけ、自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしていく」生徒の割合80%以上を目指す。 ●給食残食率0%を目指す。 ●「早寝・早起き・朝ごはん」等の望ましい生活習慣を心がけていると回答した生徒の割合80%以上を目指す。	・日々の業務内容の見直しを行い、業務改善を図る。業務改善のための話し合いの場を設定する。 ・アンケートや出欠確認票等では、ICTを積極的に活用し、業務の改善を図る。また、振り返りを行い、次年度に向け取組の見直しを行う。	B	・時間外在校等時間について、昨年度に比べて改善傾向にあるが、11月末現在すでに360時間を超えている職員が全体の29%である。 ・11月末現在、年次休暇の取得日数については、14日以上が全体の16%、10日以上が41%取得できている。計画年休の取得を今後さらに推進していく必要がある。	B	・昨年度に比べて全体的には教職員の時間外在校時間については削減することができた。一方で部活動指導や行事等での時間外在校時間についてはまだまだ改善の余地がある。 ・年次休暇の取得については全体的には計画的取得が増えていると考えられる。業務によるメンタルヘルス不全の職員を出さず、チーム白石中として業務にあたることができた。	B	・チーム力で教員一人ひとりの業務時間を削減することができているのは素晴らしい。 ・以前から比べるとかなり改善できている。 ・部活動を勤務時間内に設定することは難しいと思う。 ・服務規律の保持はしっかりなされている。 ・先生方の業務効率化、時間外在校時間の削減はなかなか難しいと思う。 ・教員の勤務時間が多く先生方の家庭の問題にもつながると思う。 ・先生方のメンタルヘルス不全を出さないことは大切だと思う。先生方の不祥事は学校への信頼を無くしてしまいます。これからは頑張ってください。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数を14日以上を目指す。 ○業務によるメンタルヘルス不全の職員を出さない。	・日々の業務内容の見直しを行い、業務改善を図る。業務改善のための話し合いの場を設定する。 ・アンケートや出欠確認票等では、ICTを積極的に活用し、業務の改善を図る。また、振り返りを行い、次年度に向け取組の見直しを行う。	B	・時間外在校等時間について、昨年度に比べて改善傾向にあるが、11月末現在すでに360時間を超えている職員が全体の29%である。 ・11月末現在、年次休暇の取得日数については、14日以上が全体の16%、10日以上が41%取得できている。計画年休の取得を今後さらに推進していく必要がある。	B	・昨年度に比べて全体的には教職員の時間外在校時間については削減することができた。一方で部活動指導や行事等での時間外在校時間についてはまだまだ改善の余地がある。 ・年次休暇の取得については全体的には計画的取得が増えていると考えられる。業務によるメンタルヘルス不全の職員を出さず、チーム白石中として業務にあたることができた。	B	・チーム力で教員一人ひとりの業務時間を削減することができているのは素晴らしい。 ・以前から比べるとかなり改善できている。 ・部活動を勤務時間内に設定することは難しいと思う。 ・服務規律の保持はしっかりなされている。 ・先生方の業務効率化、時間外在校時間の削減はなかなか難しいと思う。 ・教員の勤務時間が多く先生方の家庭の問題にもつながると思う。 ・先生方のメンタルヘルス不全を出さないことは大切だと思う。先生方の不祥事は学校への信頼を無くしてしまいます。これからは頑張ってください。
	○服務規律に対する意識の高揚	○白石中学校3ゼロ宣言 ・交通事故0宣言 ・飲酒運転0宣言 ・不祥事0宣言	・服務規律関連の記事を職員に常時配布し、服務規律に対する意識の向上を図る。 ・毎月の職員会議の日を「0の日」として位置づけ、職員の日頃の行動を振り返り、3ゼロの意識を高める。	B	・毎月の不祥事防止に向けた振り返りや職員会議での管理職からの指導等を続けて行っている。 ・日常的に社会での様々な不祥事や交通事故等を例に挙げながら日常的に意識高揚に努めている。	A	・毎月の不祥事防止に向けたアンケートや職員会議等での管理職からの指導を行い、職員の97.2%が服務規律に対する意識を高め、業務に取り組むことができた。 ・日常的な業務において、過去の事例から学んだり、見直したりする職員の姿勢が多く見られた。	A	・合理的配慮、ユニバーサルデザインの環境づくりについて、これからも研鑽してほしい。 ・生徒の満足度が高いことは素晴らしい。 ・学習を通してできること、分かることが生徒の中で増えたのは成果だと思う。工夫した環境づくりも良い。
●特別支援教育の充実	●ユニバーサルデザインを取り入れた教育環境づくりを学校全体で取り組む。	●「連絡や指示が授業や教室内に示している」と回答する職員の割合を90%以上にする。 ●「学習を通してできることが増えた」と回答する生徒の割合を80%以上にする。	・特別支援教育に関する研修の実施、生徒支援協議会での情報提供。 ・教室内の連絡黒板の使い方や掲示物の統一し、視覚支援を実践する。	B	・生徒支援協議会で生徒情報や、授業作りについて情報を提供することは行うことができていた。 ・教室内掲示については、連絡黒板の扱いが教室によって異なるので、今後統一を図ってきたい。	B	・「教室掲示を工夫し、生徒が自ら動ける環境づくりをしている」と回答した職員が81%であった。 ・「学習を通してできること、わかることが増えた」と回答した生徒は94%であった。	A	・合理的配慮、ユニバーサルデザインの環境づくりについて、これからも研鑽してほしい。 ・生徒の満足度が高いことは素晴らしい。 ・学習を通してできること、分かることが生徒の中で増えたのは成果だと思う。工夫した環境づくりも良い。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○キャリア教育の充実	○3年間を見通したキャリア教育の充実	○「学年に応じて自分の進路について考える学習が出来ている」と回答する生徒の割合を80%以上にする。	・自己理解・職業調べ(1年)、職場体験学習・進路適性検査・高校調べ(2年)、進路指導(3年)というように、系統的に指導を行い、希望の進路を実現させる。	B	・1年生では1学期の終わり、前期の通知表もらっての振り返り書き、自己理解に努めた。冬休み「身近な人の職業調べ」に取り組ませる。2年生は職場体験学習を通して、職業について考えることができた。3年生は、高校の体験入学や高校説明会を通して進路について考えることができた。	A	・アンケートによると、「職場体験学習、進路相談など、学年に応じて自分の進路について考える学習ができている」と答えた生徒の割合は86.8%と高く、各学年進路に関する取り組みを十分に行っているといえる。	A	・学年に応じて自分の進路について考えている生徒が多いことが達成度でも伝わる。 ・職場体験や進路について取り組みが十分できている。 ・与えられたらできるのではなく、考える事ができる行動できるのは素晴らしい教育だと思う。今の日本に欠かしていると感じている。
○開かれた学校づくり	○地域(保護者や地域住民)との学校教育目標の共有化、および役割分担の推進 ○教育活動の公開と情報の双方向化	○地域・小学校・家庭との交流・奉仕活動等を通して、「充実した」、「学ぶことがあった」と答える生徒の割合を80%以上にする。 ○学校たより、学校HPなどで、学校の様子が分かると答えている保護者の割合を80%以上にする。	・総合学習において、地域の有識者の方を招くなどして、地域連携の構築を図る。 ・学校運営協議会・PTAと協力して、地域とともにある学校づくりに向けて協議を行い、その内容を具現化する。	B	・学校だよりや学校HP、マチコミを通して、保護者へ地域の方々へ情報発信を行った。 ・2年生では、職場体験学習を通して地域の事業所について知り、地元白石を感じた。 ・学校運営協議会、いじめ防止対策委員会を開き、学校の現状とこれからの学校づくりに向けて協議を行った。	A	・アンケートによれば、各種便りや学校HPで、「学校の様子を伝えている」と肯定的に回答した割合は91.5%と高く、今後もさらに情報発信を行いたい。 ・アンケートによれば、全校生徒が地域との交流で「学ぶことがあった」と肯定的に回答した割合は88.4%と高く、地元白石での活動を前向きに捉えていると考えられる。	A	・アンケートで生徒たちが地域と交流で学ぶことがあったとの回答はうれしいものだ。便りや学校HPでの情報発信が十分できているようだ。 ・生徒が地域の行事に参加できると素晴らしいと思う。 ・地域の行事も少なくなっている。 ・家庭と学校、地域と学校、社会全体で子どもたちを守ることは、学校はもとより、社会全体が理解する必要があると思う。

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望

・【学力の向上】では、職員の授業改善へ向けた取組を教科部会で共有することができた。今後は各教科の実践に生かしながら、生徒の主体的な学びの実現に向けた取組を継続していく必要があると考える。【心の教育】では、支持的風土のある学級づくりを意識して取り組んだ。一方でいじめの早期発見、早期対応について、きめ細やかな対応が今後も必要であるとする。また将来の夢や希望をもたせるためのキャリア教育の充実がさらに必要であるとする。【業務改善】では、3ゼロ宣言を職員の合言葉としての取組を今年度も継続してきたことで、職員の意識向上につながった。時間外在校時間の削減は、昨年度より確実に進んでいる。職員により差があり、業務の平準化やチームで対応するなどの工夫が必要である。【開かれた学校づくり】では、学校だよりをはじめ、ホームページやマチコミなどで保護者や地域への情報発信を随時行ってきた。学校運営協議会やいじめ防止対策委員会でも多くの意見を頂いたので、参考にしながら次年度の学校教育目標の実現に向け取り組んでいきたい。